

## ナシのナシヒメシンクイ

### 1 形態と生態

成虫は、体長 5～7mm で黒褐色を呈しています。翅の開張が 12mm 前後で、前翅に7対の白い短線が見られます。卵は扁平でほぼ円形、乳白色で、葉裏、新梢、果実に通常1卵を産みつけます。幼虫は淡褐色で、成熟すると体長 10mm 程になります。



写真1 成虫(5～7mm)



写真2 老齢幼虫(約 10mm)

### 2 被害の様子

- (1)ナシヒメシンクイは、ナシの害虫ですが、リンゴ、モモ、スモモ、ウメなど多くの果樹に被害を及ぼします。
- (2)幼虫は、5月～6月にかけてナシの新梢に食入し、心折れの被害を引き起こします。この時期の被害は軽微なものですが、ときに結果枝の先端の軟らかい部分に食入し内部を空洞化するため、強風等により枝が折れやすくなります。
- (3)7月以降になると、ナシの果実を食害します。果頂部から侵入することが多く、果頂部に細かい虫糞を出します。
- (4)一方、モモシンクイガによる被害は、食入部が果実の肩や側面であり、食入孔から糞を出さずに果心部に向けて侵入し、好んで種子を食害する点で本種と特徴が異なります。



写真3 新梢の心折れ(ナシ)

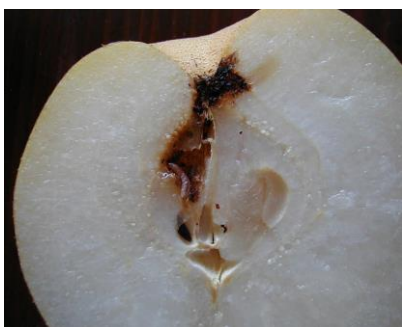


写真4 果実の被害(ナシ)



写真5 食入孔の虫糞(ナシ)

### 3 発生について

(1) 気温が高く、降水量が少ないと発生が助長され、発育期間も短くなります。また、ナシ園の近くにある放置園などが発生源となります。世代を重ねるほど虫の密度が高まってくるので、収穫期の遅い品種ほど被害を受けやすくなります。

(2) 老齢幼虫がナシやモモなどの粗皮の下や間隙に薄い繭を作って越冬します。

(3) 越冬幼虫は3月頃に蛹化し始め、成虫は4月頃から発生します。

(4) 越冬世代成虫は、ウメなどの葉裏や新梢に産卵しますが、近くにウメ等が無い場合にナシの新梢や結果枝に食入することがあります。

(5) ナシ果実に産卵し被害が生じるのは、7月以降に現れる第2世代以降の幼虫です。

(6) 関東では年4~5回発生します。

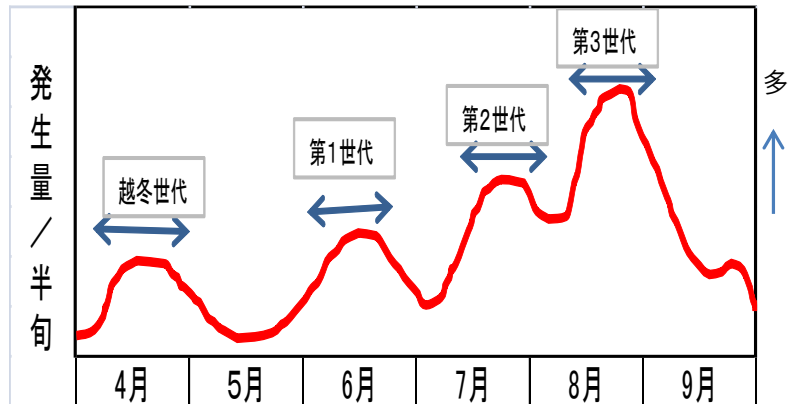


図1 ナシメジクイ成虫の発生活長(埼玉県農業技術研究センター久喜試験場内平年値データを参照)

### 4 防除時期と防除方法

#### (1) 防除適期

重点防除時期は、7月中旬、8月中旬及び9月上旬です。成虫の発生活長は年により異なりますので、フェロモントラップを利用した発生活長(病害虫防除所調査データ)などを参考に防除します。

#### (2) 耕種的防除

ア 粗皮削りを実施し、越冬場所を減らします。

イ ナシ園付近のウメ、サクラ、スモモなどの新梢折れや、ナシの被害果は速やかに摘除します。

#### (3) 薬剤防除

ア 成虫の発生活長を参考に薬剤防除します。ナシ園の周囲のウメ等も同時に防除すると効果的です。なお、スปีドスプレーヤーを使用した防除ではドリフトしやすいので、風のない日に飛散防止対策を講じた上で、散布してください。

イ 交信攪乱剤(コンフューザーN等)を使用する場合は、多目的防炎網を設置し、成虫発生初期から使用してください。なお、ナシ園の周囲を含め比較的広範囲の地域での使用が効果的です。また、彩玉や豊水等の中晩性種には7月に追加設置するとより効果的です。

#### 薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当 TEL048-536-0409

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県